

平成29年度里山ふれあい通信(Vol-3)をお送りします。

1 夏野菜の植え付けについて

①接ぎ木苗での植付がお勧めなもの 接ぎ木苗なら連作障害も出にくく、病気にも強い。	ナス、キュウリ、トマト、スイカ、カボチャ
②自根苗で十分なもの	ピーマン、しし唐、ズッキーニ、ミニトマト
③種からでも苗でもいいもの 種からだとな収穫まで時間がかかります。	オクラ、ゴーヤ、モロヘイヤ
※苗の選定: 青々として節間(上下の葉の間隔)の詰まったもので、 双葉が枯れていないものを選びましょう。(苗半作と言います)	

2 植付時期

4月最終週から5月中旬。

- ・まだ地温が低いので黒マルチをして、穴あきトンネルアンドン等で保温してやると風の影響も少なくなり根の活着が早くなります。
- ・鉢上げと言って、買って来た苗を大きめのポットにそのまま植替え暖かいところに置いてから植えるのも良い方法です。

注 アンドン仕立て: 肥料などの袋の上下を抜いて、4方に行灯(あんどん)のように支えを入れて苗を保温する。風よけにもなって根の活着も良い。

3 施肥

- ①トマト、ナス、ピーマン等は深く根を張るので30cm程の溝を掘って堆肥、溶リン、化成肥料を施す。
- ②キュウリ、オクラ、コーン等は浅く広く根を張るので広く浅く施す。
- ③追肥: 植付て2週間ほどで活着したら株間に1回目の追肥をして、実がなりだしたら2週間に1回、株の周りに追肥をする。

4 植付・整枝・その他

トマト

- ①最初の花房(実が着く房)の2/3が開花したところが植付のベスト。
- ②花房は同じ方向に着くので通路側に向けると収穫しやすい。
- ③株間50cm、条間80cm 植穴を掘って、水をやり水が引いたら植え付ける。
- ④接ぎ木苗は接ぎ木部が埋まらない様に、自根苗は斜め植えにするとそこから発根し丈夫な苗になる。
- ⑤成長して来たら脇芽を欠いて主枝1本仕立てにするのが基本です。
- ⑥芽欠きしたものを水につけておくと発根してくるので、それで苗が増やせる。
- ⑦実がなって雨が降ると急激に水を吸い上げて、実が割れる(裂果)ので雨除けをすると良い

ナス

- ①一番花が咲き始めたときがベスト。
- ②株間60cm、畝間80cm。

- ③ 植え方はトマトと同じ(斜め植えはしない)。
- ④ 高温を好むので、保温した方がいい。
- ⑤ 主枝と一番花のすぐ下の脇芽2本を残し、その下は脇芽は欠き取る
- ⑥ 3本仕立てが基本。

- キュウリ
- ① 株間50cm、条間70cm(2条植)にするとよい。
 - ② 植付はナスと同じ。
 - ③ 整枝は品種により、1本または3本仕立てをし、ネットと支柱でしっかり支える。弱い枝だけを切り取る放任栽培でも良い。
 - ④ ただし、枯れた葉や病気の葉は早めに切り取る。

ピーマン・シシトウ・唐辛子

- ① ナスよりも更に高温を好むので、鉢上げをするか、アンドン等で保温をするとよい。
- ② 整枝は、ナスと同じ一番花の下の2本の脇芽を延ばす3本仕立て、大きくなったらしっかり3本の支柱で枝を支える。

注いずれも植え付けたら必ず支えをする。
支えがないと、風で揺れると根の活着が悪くなり成長が遅れる。

オクラ・コーン

- ① 種をまく場合は、前の晩から水につけておく。
- ② ポット蒔きも直播も1か所4～5粒を蒔く。
- ③ 移植に弱いので、ポット蒔きの場合、根鉢(ポットの土)を崩さないように植付る。
- ④ 株間、条間30～40cmの2条植にし、活着したら元気な2本以外を根元から切り取る。